

鹿野町内遺跡発掘調査報告書

(今市地区農村基盤総合整備事業
に伴う寺内京南遺跡試掘調査)

1991年3月

鳥取県気高郡鹿野町教育委員会

序 文

今回の試掘調査は、今市地区農村基盤総合整備事業に伴い実施したものです。この地区は、昭和55年度に発掘調査がおこなわれた寺内京南遺跡の南部にあたります。昭和55年度の調査では、遺跡の範囲を確定するには至りませんでした。そのため、土地改良事業関係者と協議した結果、土地改良事業から遺跡を保護するために、その南側の範囲を確認して事業との調整資料を得る必要が生じ、国県の補助金を受けて試掘調査を実施しました。

調査にあたりましては、土地所有者の方々をはじめ作業従事者等関係各位のご協力を賜り、ここに厚くお礼申し上げます。また、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターのご指導・ご助言に深く感謝申し上げます。

本書は、報告書としましては、調査員の力量不足の為、甚だ満足すべきものではありませんが、関係者の皆さんにご利用いただければ幸に存じます。

今後、開発等により、埋蔵文化財の発見が考えられますので、地元の皆さんをはじめ各位のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

1991年3月

鳥取県気高郡鹿野町教育委員会

教育長 砂 川 正 美

調査関係者

団 長	鹿野町教育委員会 教育長 砂川 正美
調 査 指 導	鳥取県教育委員会 文化課 鳥取県埋蔵文化財センター
調 査 員	鹿野町教育委員会 主 事 清水 富和
事 務 局	鹿野町教育委員会 次 長 長谷川 明 主 事 清水 富和
作 業 協 力 者	木村辰男・今本初音・山名信子・鈴木さち子・上橋富美子 網谷富江・武部文子
土 地 協 力 者	中原須美・中田道夫・今本茂幸・宮脇久志・中原英範・西浦 修 中田定之・山名芳弘・大井津豊・今本 徹・竹森英雄
その他協力者	今市地区農業集落整備組合・鹿野町農林課

例 言

1. 本書は、国庫及び県費の補助金を受けて鹿野町教育委員会が平成2年度に実施した鹿野町内（寺内京南）遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査事業は、今市地区農村基盤総合整備事業に伴い、試掘調査として実施した。
3. 本書の執筆は、清水が行った。
4. 本書に収載した実測図の原図作成及び遺構・遺物の写真撮影は清水が行った。
5. 遺物の整理及び実測は、武部が行った。
6. 実測図中の方位は磁北である。
7. 本書における遺構は、次のように示す。
SK：土坑 SD：溝状遺構 P：ピット
8. 遺物番号は、挿図・図版にわたって統一した。
9. 発掘調査でえられた日誌・図面・出土遺物等は、鹿野町教育委員会で保管する。

本文目次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 位置と環境	1
第3章 調査の内容	3
第1節 調査の概要	3
第2節 各トレンチの概要	3
第3節 出土遺物	7
第4章 ま と め	15

挿図目次

挿図1 鹿野町遺跡分布図	2
挿図2 トレンチ配置図	4
挿図3 第1トレンチ平面図及び土層図	5
挿図4 第2トレンチ平面図及び土層図	5
挿図5 第4トレンチ平面図及び土層図	8
挿図6 第6トレンチ平面図及び土層図	8
挿図7 第11トレンチ平面図及び土層図	9
挿図8 第13トレンチ平面図及び土層図	9
挿図9 第14トレンチ平面図及び土層図	10
挿図10 第15トレンチ平面図及び土層図	10
挿図11 出土遺物実測図1	12
挿図12 出土遺物実測図2	14

図 版

図版1 調査地遠景	16
図版2 第1トレンチ	16
図版3 第2トレンチ	18
図版4 第4トレンチ	18
図版5 第4トレンチ土城	20
図版6 第6トレンチ	20
図版7 第11トレンチ	22
図版8 第13トレンチ	22
図版9 第14トレンチ	24
図版10 第15トレンチ	24
図版11 出土遺物	26

第 1 章 調査に至る経過

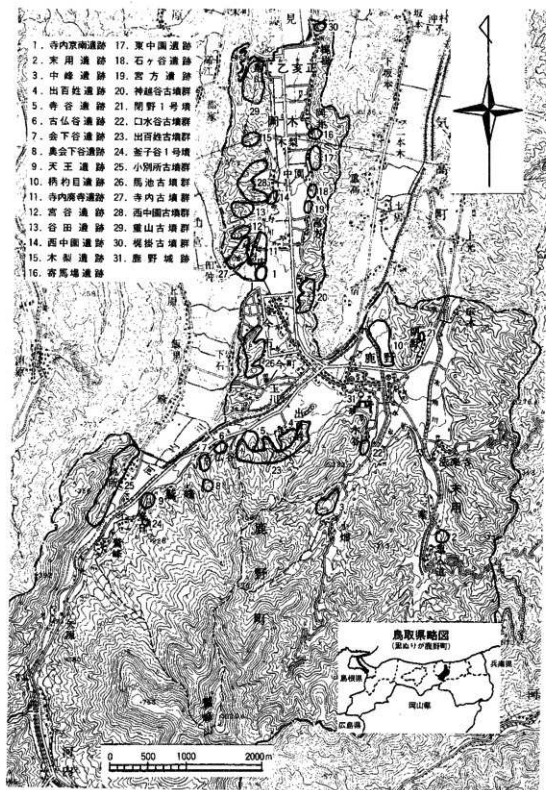
平成元年度に今市地区農村基盤総合整備事業が平成3年度より実施されることが決まった。この地区に隣接した北側には寺内京南遺跡が確認されているが、この遺跡が総合整備事業区域までひろがっている可能性が高い為、遺跡の南部への広がりを確認し、事業との調整を図る必要が生じた。そこで、国庫及び県費の補助金を受けて平成2年7月11日から現地調査を行った。

第 2 章 位置と環境

鹿野町は鳥取県の東部地区に位置し、東は鳥取市、西は青谷町、北は気高町に接している。鹿野町は、面積の約85%が山林・原野で覆われ、平野は町内を流れる三本の河川、河内川・水谷川・末用川の流域に細長く広がっている。河内川は現在では鹿野町出百姓から北々東に流れ端穂谷を縦断しているが、古くは、気高町達坂谷を、また、気高町殿から鹿野町寺内付近を通って浜村へ、また玉川で曲がって今市から浜村へと流路を変えたようである。

鹿野町の南部にそびえる標高921mの鷲峰山とそれに連なる山塊から北に向かう急峻な傾斜より派生した一支尾根が越路ヶ丘丘陵である。越路ヶ丘丘陵は、北は気高町浜村に至る小丘陵に、南は鷲峰山山塊に連続するものであったが、旧河内川の氾濫により分断され、現在みるような独立丘陵になったものと推定される。寺内京南遺跡は、この越路ヶ丘丘陵の北に位置し、旧河内川が形成した低位段丘上にある。300m程北には、寺内廃寺遺跡、700m程西には、気多郡衙と推定されている上原遺跡がある。

鹿野町には、現在確認されている遺跡が約155存在している。そのうち縄文時代の遺跡は、柄杓目遺跡で土坑及び溝状遺構が検出されている。弥生時代の遺跡は、柄杓目遺跡で竪穴住居跡等が確認され、寺内京南遺跡及び寺内廃寺遺跡では土器片が検出されている。古墳時代になると、山麓を中心に古墳が築かれる。その数は、約130におよぶ。鹿野町で確認されている古墳は、河内川中流域と勝谷谷^{カサゴ}の山麓に集中し、水谷川・末用川沿いで確認されているものはごくわずかである。その大部分は、現及び旧河内川中流域から下流にかけての兩岸の山麓である。古墳時代の住居跡としては、柄杓目遺跡と当寺内京南遺跡で竪穴住居が確認されている。奈良・平安時代になると寺内廃寺遺跡、柄杓目遺跡、気高町上原遺跡・戸島遺跡等河内川中流域が中心となる。その後、中世から近世にかけては、国衆・地侍の拠点となった鹿野城を中心とする地域が政治・経済・文化の中心となった。



挿図1 鹿野町遺跡分布図

第 3 章 調 査 の 内 容

第 1 節 調査の概要

寺内京南遺跡は、昭和55年度の調査で「遺跡範囲はさらに南方に拡大することが判明した」と報告されている。この報告を基に踏査を行った結果、一部地域で少量ではあるが、土器の散布がみられた。この確認された散布地及び昭和55年度の調査地南部を中心に15本のトレンチを設定した。試掘調査は、基本的には10m×2mのトレンチ法により調査を行った。調査は、調査地が耕作地であるため、転作地及び畑地は7月に、田は稲の刈り入れの終了した10月下旬から11月にかけて行った。調査面積は、全体で287㎡におよんだ。

第 2 節 各トレンチの概要

第 1 トレンチ (T1)

約20cmの耕作土の下に黒褐色細砂土があり、地山の黄褐色細砂土に達する。遺構は、直径約40cmのピットを2検出した。遺構にともなう出土した遺物はないが、黒褐色細砂土層より少量の遺物が出土しており、これから判断すると、ピットは古墳時代の可能性が高いと考えられる。

第 2 トレンチ (T2)

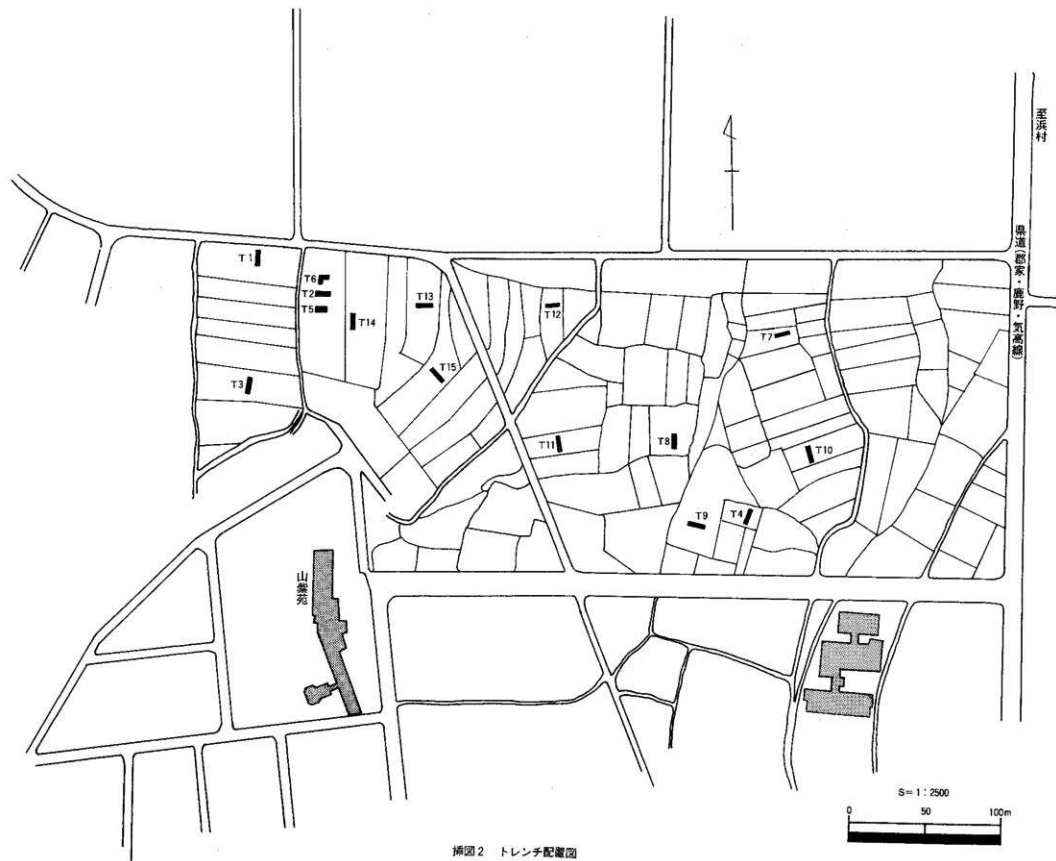
約20cmの耕作土下に、約30cmの黒褐色細砂土で地山に達する。地山面は西から東に傾斜する。トレンチの東半分が溝状遺構を2検出した。SD01は緩やかに掘り込まれ、深さは約50cm、幅約200cmを測る。SD02は急角度に掘り込まれる。深さは、約75cm、幅は全体を検出できなかったため、不明。遺物は、黒褐色細砂土層中より高坏等を検出したが、遺構中よりは検出しなかった。ただしSD02中の底面近くではほぼ水平に位置する平石を確認した。

第 3 トレンチ (T3)

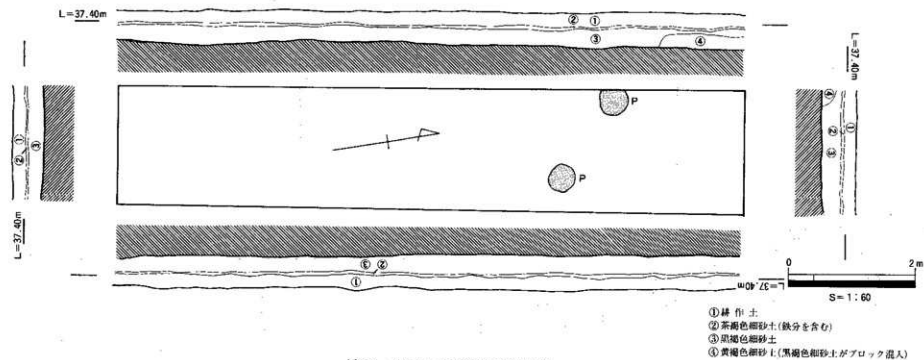
約20cmの耕作土を除去すると黄褐色細砂土の地山面に達する。遺物は耕作土中より出土したが、遺構は検出しなかった。

第 4 トレンチ (T4)

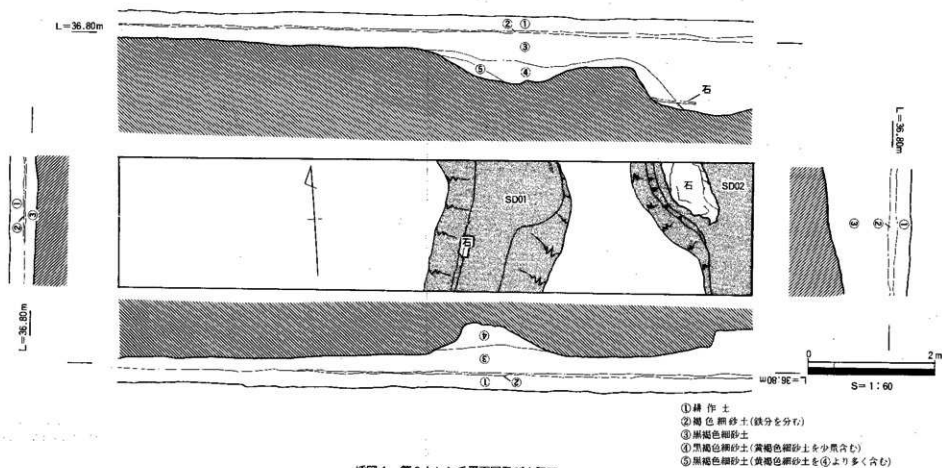
約15cmの耕作土の下に、25～30cmの黒褐色細砂土があり、その下が黄褐色細砂土の遺構面に達する。地山との接地面に黄褐色土がブロック混入しているところもある。遺構は黄褐色土を掘り込んだ土壇を2つ検出した。土壇の形は、2つとも楕円形で直径150cm程度である。土壇内より上師器片が1片出土したが図化できなかった。出土遺物より古墳時代と考える。



挿図2 トレンチ配電図



挿図3 第1トレンチ平面図及び土層図



挿図4 第2トレンチ平面図及び土層図

第5トレンチ (T5)

第2トレンチの南側に第2トレンチで検出した溝状遺構の延長具合を確認する為設定した。約25cmの耕作土の下に、約15cmの黄褐色細砂土が混入する黒褐色細砂土があり、地山の黄褐色細砂土に達する。第2トレンチと比較して地山面のレベルが約20cm上がる。SD01の延長は検出できなかった。

第6トレンチ (T6)

第5トレンチ同様、第2トレンチで検出した溝状遺構を追跡する為設定した。SD02の延長部と思われる溝状部を検出した。幅は約290cmを測る。また、直径約40cmのビットを1つ検出した。

第7トレンチ (T7)

耕作土を剥ぐとすぐ地山面の黄褐色細砂土に達する。遺構は検出しなかった。

第8トレンチ (T8)

耕作土を剥ぐと約20cmの黒褐色細砂土があり、地山に達する。耕作土及び黒褐色土中より少量の遺物を検出したが、遺構は確認できなかった。

第9トレンチ (T9)

第4トレンチの西側に設定した。第4トレンチより約70cm低い。約20cmの耕作土を剥ぐと、約14cmの褐色細砂土があり、地山に達する。西側は20cm程落ち込む。これは遺構ではなく、すぐ西を小川が流れている等により自然の傾斜と考える。

第10トレンチ (T10)

第4トレンチの北東約50mに設定した。約25cmの耕作土を剥ぐと、すぐ地山の黄褐色細砂土が現れる。遺構は検出できなかった。

第11トレンチ (T11)

耕作土下に、黒褐色細砂土があり、地山に達する。黒褐色細砂土は南側は14cm、北側は50cmと南から北にかけて徐々に厚くなる。地山もそれに伴って低くなる。遺構は、交差する溝状遺構とビットを検出した。トレンチの北側はトレンチの長軸方向に対して斜めに落ち込む。この低くなった部分には、直径10～40cmの石が点在していた。石は全て河原石である。また、埋土の黒褐色系の土は非常に粘質性が強い。

第12トレンチ (T12)

西から東へと傾斜する斜面の下に設定したトレンチである。約20cmの耕作土の下に約30cmの褐色細砂土があり、さらにその下に約60cmの黒褐色細砂土がある。その下は砂質層となる。この層まではかなりの深さがあり、また下部では湧水があるため、全体を掘り下げることが断念し、一部だけの掘り下げ調査で終了した。砂質層が最下層より検出できたことから旧河道の可能性が高いと思われる。

第13トレンチ (T13)

耕作土の下に約50cmの黒褐色土があり、地山に達する。北側の壁際に土壇及びピットを検出した。土壇は地山の黄褐色細砂土に掘り込まれており、深さは約60cmを測る。大きさは全体を検出していない為断定できないが、形は楕円形と思われる。

第14トレンチ (T14)

耕作土の下に、約50cmの黒褐色土があり、地山に達する。直径約60cmのピットを2、直径約20cmのピットを1検出した。

第15トレンチ (T15)

耕作土下に、約60cmの黒褐色細砂土で地山に達する。トレンチ東側で連続する3つの土壇を検出した。また、西側で直径25cm内外のピット3を検出した。中央に検出したピット状の直径90cmの落ち込みはピットかどうか断定できなかった。

トレンチ 番号	トレンチの 大きさm	遺 構	遺 物	トレンチ 番号	トレンチの 大きさm	遺 構	遺 物
T1	2×10	ピット 2	縄文土器 土師器	T9	2×10	検出できなかった	土師器 須恵器
T2	2×10	溝 2	須恵器	T10	2×10	検出できなかった	検出できなかった
T3	2×10	検出できなかった	検出できなかった	T11	2×10	ピット 溝 多数 多数	土師器 須恵器
T4	2×10	土 壇 2	土師器 須恵器 石鏃 須恵器	T12	2×10	検出できなかった	検出できなかった
T5	2×6	検出できなかった		T13	2×10	土 壇 1	瓦 須恵器 土師器
T6	2×7.5	ピット 1 溝 1	須恵器	T14	2×10	ピット 3	瓦 須恵器
T7	2×10	検出できなかった	検出できなかった	T15	2×10	ピット 3 土 壇 3	須恵器
T8	2×10	検出できなかった	土師器				

各トレンチ一覧表

第3節 出土遺物

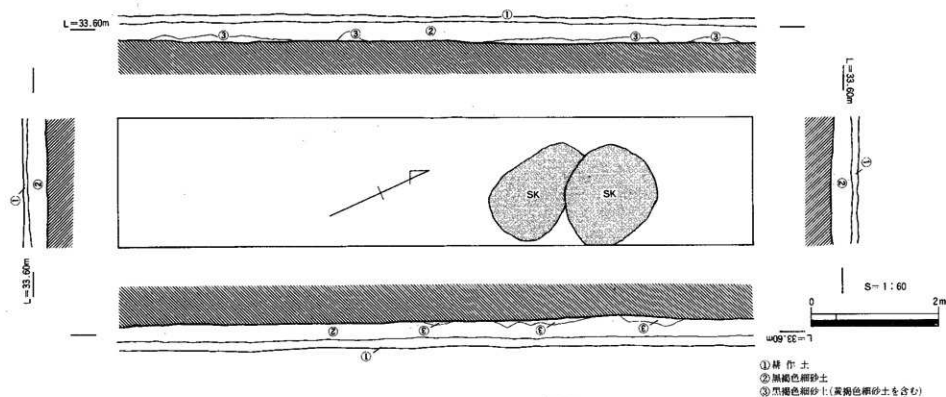
出土遺物は縄文時代後期から中世におよぶが、多い土器は古墳時代後期のものである。細片が多く図化できたのは、ほんのわずかでした。

・石鏃 (1)

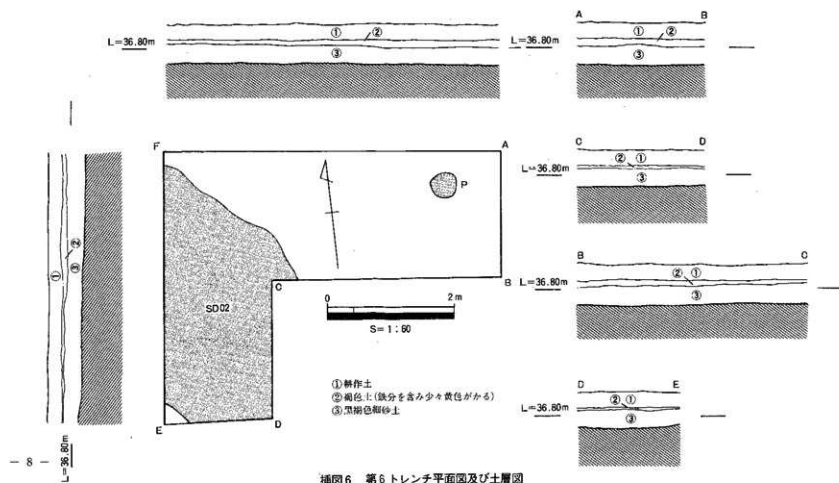
第5トレンチ表土中で検出した。基部は一部欠損しているが、片面が削られ薄く整形されている。石材は安山岩である。

・縄文土器 (2、3)

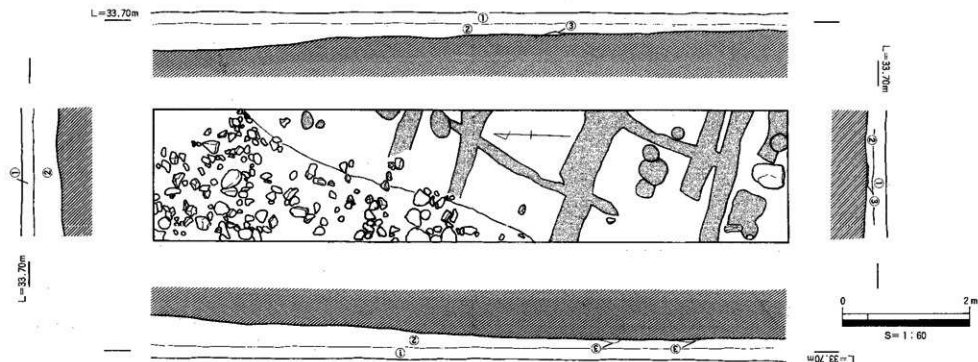
2点検出した。いずれも第1トレンチの黒褐色細砂土中よりの出土である。(2)はL



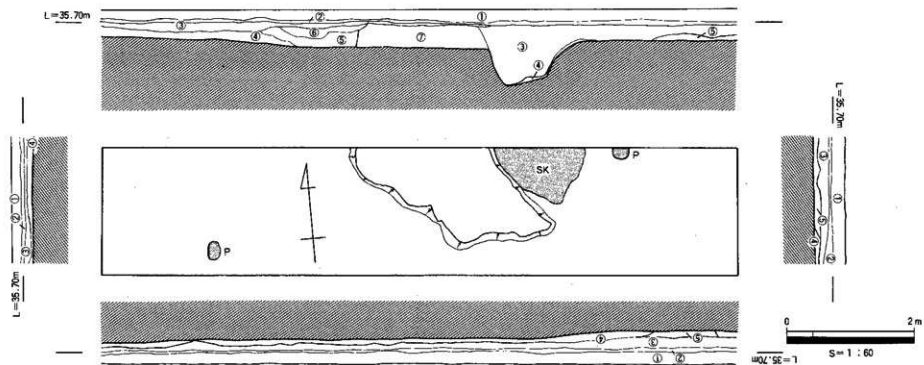
挿図5 第4トレンチ平面図及び土層図



挿図6 第6トレンチ平面図及び土層図

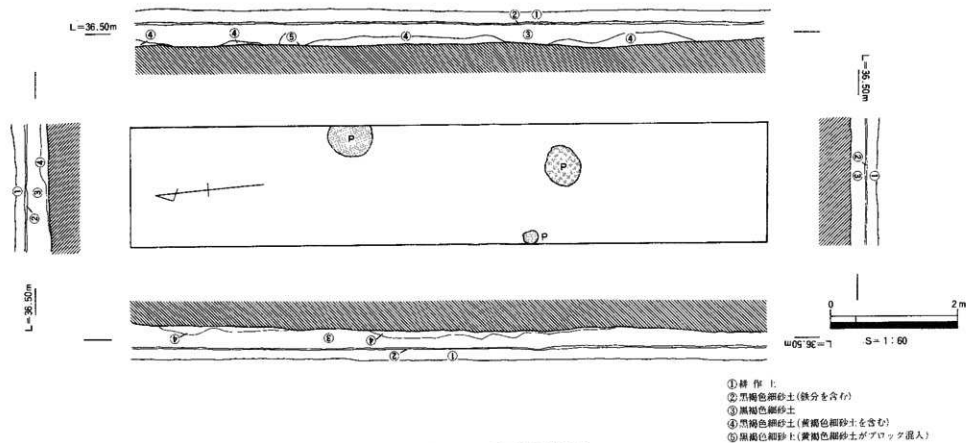


挿図7 第11トレンチ平面図及び土層図

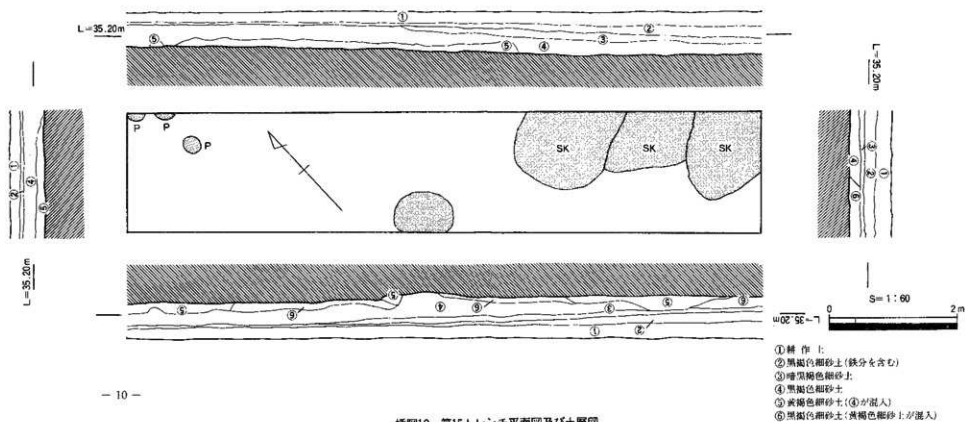


挿図8 第13トレンチ平面図及び土層図

- ① 耕 作 土
 ② 褐色 細砂土 (鉄分を含む)
 ③ 赤褐色 細砂土
 ④ 赤褐色 粘質土 (黒褐色 細砂土混入)
 ⑤ 赤褐色 粘質土 (赤褐色 粘質土混入)
 ⑥ 赤褐色 粘質土 (赤褐色 粘質土ブロック混入)
 ⑦ 赤褐色 粘質土



挿図9 第14トレンチ平面図及び土層図



挿図10 第15トレンチ平面図及び土層図

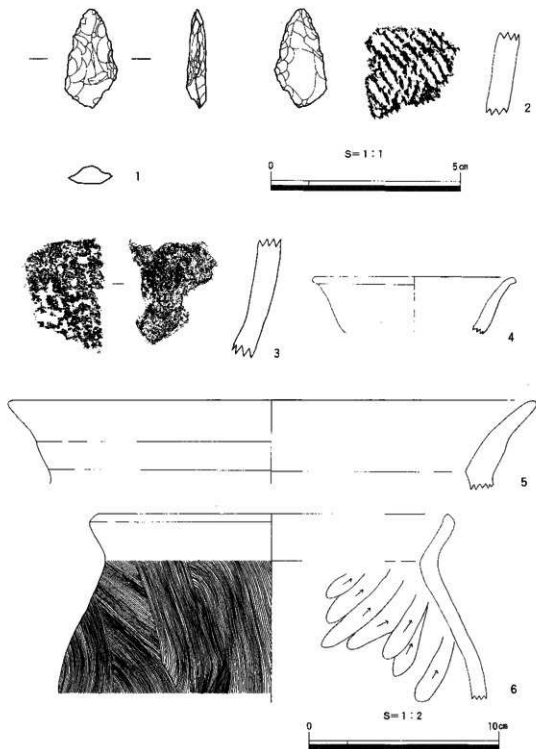


插图11 出土文物实测图1

Rの縄文を有する厚さ7mmの上器片である。1mm前後の砂粒を含み、焼成はやや軟。(3)は表面は風化が進み詳細はわからないが、粗製の無文上器のようである。1mm以下の砂粒を少量含み焼成は良。

・土師器

口縁部(4)

内湾ぎみにたち上がった後、端部近くでやや外反する。内外面とも横ナデ。1mm前後の砂粒を含む。焼成はやや軟。

口縁部(5)

外反する口縁部。口縁端部は丸く整形されている。内外面とも横ナデ。1mm前後の砂粒を含み焼成は良。

甕(6)

頸部のくびれ及び胴部のふくらみのゆるやかな甕。口縁部は丸く終わる。頸部より下部に縦方向のハケ目を施している。口縁部内外面横方向のハケナデ、内面体部ヘラケズリ。2mm以下の砂粒を含み、焼成は良。

口縁部(7)

端部近くで直線的に外傾する。内面にクシ目状の横ナデ痕が残る。外面に煤が付着している。

・須恵器

有蓋高坏(8)

坏部は緩やかに広がったのち急に立ち上がる。受部は外反ぎみに立ち上がり、端部は角をもつ。脚部は一旦ハの字状に広がったのち、再び下降する。坏部内外面及び脚部外面横ナデ。脚部に焼成時にくっついたと思われる別の須恵器片がある。

甕(9)

外反したのち、端部近くでやや内湾ぎみとなる。口縁端部は、やや内側につまみだされている。内外面とも横方向のハケナデ。1mm以下の砂粒を含み、焼成は須恵器としては不良。

・すり鉢(10)

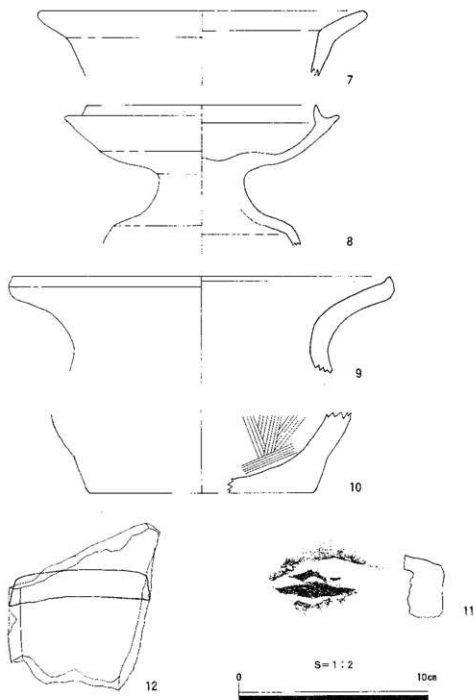
密な擦り面を持つすり鉢。

・軒先飾瓦(11)

第13トレンチの表土中で検出した。表面に模様らしきものがみられるが、欠損により詳細は不明。

・平瓦(12)

第14トレンチの表土中で検出した。厚さ1.5cm。



挿図12 出土遺物実測図2

第 4 章 ま と め

今回の調査は、昭和55年度に調査を行った寺内京南遺跡の南部方向への広がりを主目的に行った。トレンチを15本設定してその結果8本のトレンチで遺構を検出した。

遺構は主に3地区に分かれる。昭和55年度の調査区に隣接する地区（A）、これに旧河内川河道と思われる低地形をはさんで対岸となる地区（B）とさらに小川をはさんだ地区（C）である。

A地区は第1、2、5、6、13、14、15トレンチあたりで、調査区内では一番の高位に位置し、西から東にかけて徐々に低くなり、第12トレンチでは落ち込み、旧河道となっているようである。検出された遺構はピット、土坑、溝状遺構である。遺物も出土しているが、量は少なく、遺構に伴って出土したものはない。

B地区は第11トレンチあたりで南から北に低くなる。11トレンチの北側は急に落ち込んでいる。ちょうど旧河道との境ではないかと思われる。ピット及び溝状遺構を検出した。

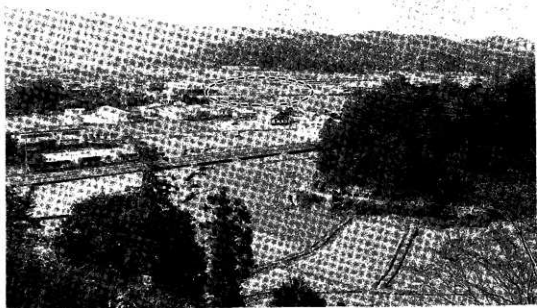
C地区は第4トレンチあたりで、現状ではB地区と小川をはさんで東に位置する微高地である。土坑を2検出した。

全体として河内川が形成した、微高地上に遺跡が存在したと判断できる。特にB・C地区は他の遺跡の存在しない地域と比較してもたった1m以下の高低差しかない微高地である。

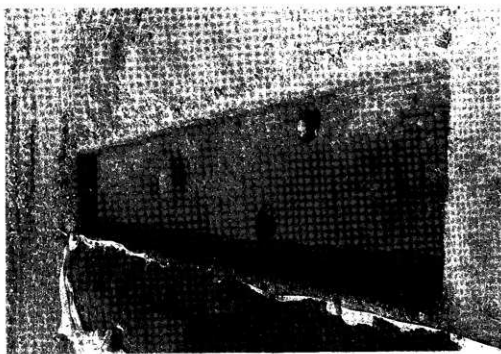
遺跡の始まりは縄文時代にまでさかのぼることができるかもしれないが、2片の遺物のみの検出である。その後、古墳時代～中近世の遺物も検出している。遺構は遺物が遺構中から検出されたものがほとんどない為、時期を断定するに至らないが、遺構面近くの埋土中から出土した遺物から判断すると古墳時代中期～後期と考えるのが妥当と思われる。こう判断すると昭和55年度に調査された寺内京南遺跡発掘調査の結果と時期差がみうけられる。弥生～古墳時代前期の遺物が全くといっていいほど検出されていないのはどうしたことか一考察必要であろう。

图

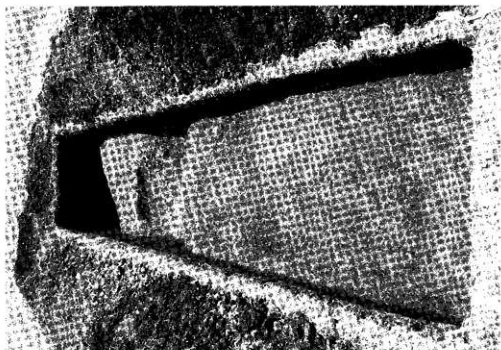
版



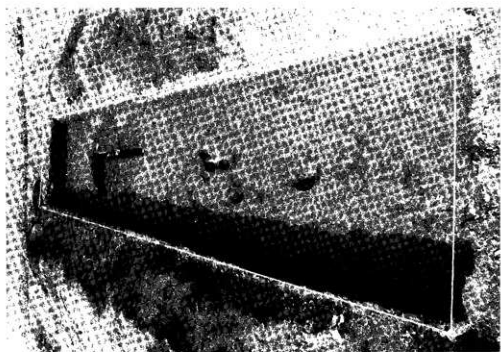
図版1 調査地遠景



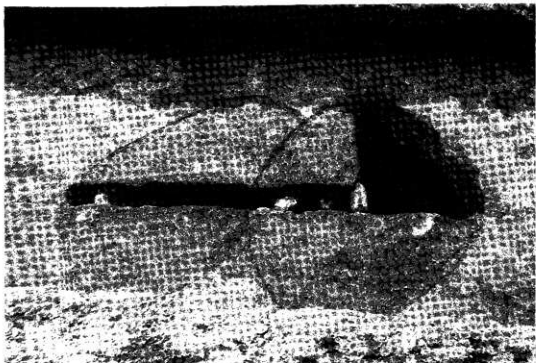
図版2 第1トレンチ(北より)



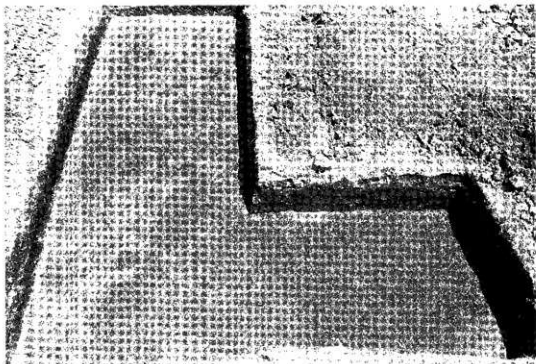
図版3 第2トレンチ(西より)



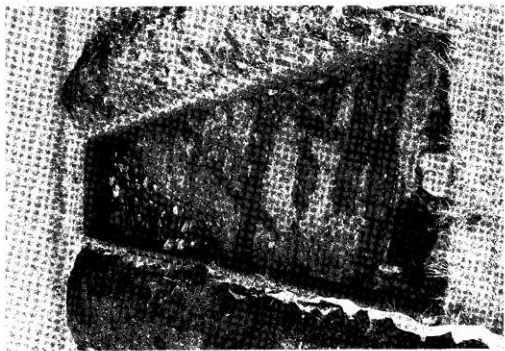
図版4 第4トレンチ(南より)



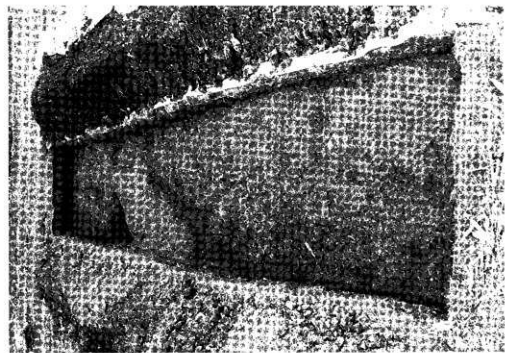
図版5 第4トレンチ土壇(東より)



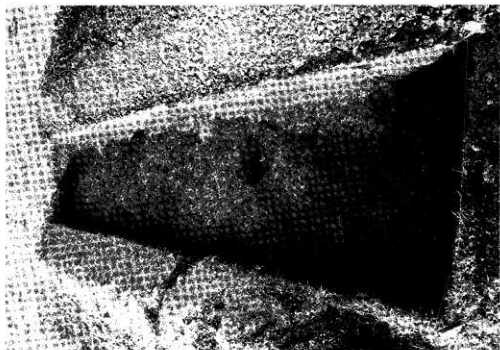
図版6 第6トレンチ(西より)



図版7 第11トレンチ(南より)



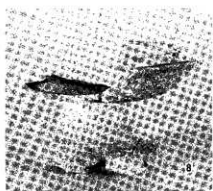
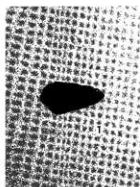
図版8 第13トレンチ(南より)



図版9 第14トレンチ (西より)



図版10 第15トレンチ (南東より)



图版11 出土遺物

鹿野町文化財報告書 第11集
鹿野町内遺跡発掘調査報告書

発行 1991・3

発行者 鹿野町教育委員会

〒689-04 鳥取県気高郡鹿野町大字鹿野1517番地

TEL (0857)84-2011(代表)

印刷 中央印刷株式会社

鳥取市南栄町34

TEL (0857)53-2221